

令和元年度 特別の教育課程の実施状況等について

【特別の教育課程の内容】

(1) 特別の教育課程の概要

これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため、小学校第1学年及び第2学年の生活科20時間を外国語活動に替えて実施する。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002年にはFIFAワールドカップの会場地となり、2020年には東京オリンピックサッカー競技の開催が予定されている。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、「子どもが元気 香る歴史とスポーツで紡ぐまち 鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力を世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

(3) 特例の適用開始日

2007年4月

2018年4月 変更

(4) 取組の期間

2030年4月まで

【特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果】

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ⊙計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ⊙実施している
- ・実施していない

(3) 第1学年児童による評価

① 外国語活動の時間は、楽しいですか。

	割合%
楽しい	94.7
どちらかという楽しい	5.3
どちらかという楽しくない	0.0
楽しくない	0.0

② ALTと英語で話したり活動したりするのは楽しいですか。

	割合%
楽しい	84.2
どちらかという楽しい	10.5
どちらかという楽しくない	5.3
楽しくない	0.0

③ 英語を話せるようになりたいですか。

	割合%
話せるようになりたい	73.7
どちらかという話せるようになりたい	26.3
どちらかという話せるようになりたくない	0.0
話せるようになりたくない	0.0

④ 外国のことをもっと知りたいですか。

	割合%
知りたい	83.3
どちらかという知りたい	16.7
どちらかという知りたくない	0.0
知りたくない	0.0

(4) 第2学年児童による評価

① 外国語活動の時間は、楽しいですか。

	割合%
楽しい	66.7
どちらかという楽しい	25.0
どちらかという楽しくない	0.0
楽しくない	8.3

② ALTと英語で話したり活動したりするのは楽しいですか。

	割合%
楽しい	70.8
どちらかという楽しい	20.8

どちらかというとなんか楽しくない	8.3
楽しくない	0.0

③ 英語を話せるようになりたいですか。

	割合%
話せるようになりたい	77.3
どちらかというとなんか話せるようになりたい	13.6
どちらかというとなんか話せるようになりたくない	0.0
話せるようになりたくない	9.1

④ 外国のことをもっと知りたいですか。

	割合%
知りたい	71.4
どちらかというとなんか知りたい	23.8
どちらかというとなんか知りたくない	0.0
知りたくない	4.8

(5) 教職員による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

	割合%
思う	44.0
どちらかというと思う	48.0
どちらかというと思わない	8.0
思わない	0.0

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。

	割合%
思う	68.0
どちらかというと思う	32.0
どちらかというと思わない	0.0
思わない	0.0

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化（生活、習慣、行事等）に対する興味・関心が高まっていると思いますか。

	割合%
--	-----

思う	40.0
どちらかと思う	40.0
どちらかと思わない	16.0
思わない	4.0

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。(自由記述)

- ・低学年から英語に親しむことで、中学校に進学するまでの間にある程度英語の能力が身につくこと。
- ・人種や国境を越えてかかわるための見方・考え方が育つこと。
- ・歌や絵本などで慣れしみ、外国の文化等への関心が高まること。
- ・国際理解や異文化理解、人権教育に関連付けてコミュニケーション能力の向上を図ること。
- ・外国語に慣れ親しむ素地を作ること。
- ・コミュニケーションスキルを身に付けること。
- ・まずは、しっかりと日本語(母国語)の基礎を学ぶことが大切。英語は簡単なあいさつ表現を学べば十分である。

(6) 保護者及び学校関係者による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

	割合%
思う	54.2
どちらかと思う	40.7
どちらかと思わない	1.7
思わない	3.4

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。

	割合%
思う	71.2
どちらかと思う	25.4
どちらかと思わない	1.7
わない	1.7

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化(生活、習慣、行事等)に対する興味・関心が高まっていると思いますか。

	割合%
思う	45.8
どちらかと思う	37.3
どちらかと思わない	15.3
思わない	1.7

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。(自由記述)

- ・スピーキング力の向上。

- ・英語嫌いにならないプログラムの実施。
- ・英語や外国の文化に興味を持つこと。
- ・ジェスチャーや体を動かしながら楽しく学べること。
- ・あいさつや自己紹介ができること。
- ・身近な存在に感じ、楽しく触れ合うこと。
- ・外国の方と抵抗なく、臆せずコミュニケーションを図ろうとする気持ちが育つこと。
- ・導入されている i Pad を活用して、オンライン多読教材等も使って力をつけること。

【実施の効果及び課題】

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校では学校組織目標として「表現力の向上」を掲げ、全教科で取り組んできた。低学年の外国語活動においては身近な果物、スポーツ、動物、数字などの言葉に慣れ親しむのはもちろんのこと、自分の気持ちを表現する活動も導入し継続的に実践してきたことで、積極的に自己表現をする活動が活発に行われている。課題は、自己表現するものがない児童、例えば、好きなスポーツがない、好きな色がないという児童もいるので、普段から自分を見つめる機会を増やすことである。また、場面に応じた表現を使い分ける活動に苦手意識を持つ児童がいることから、自分で判断して使う力をつけることが課題である。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校においては第1学年から外国語活動を実施してきた。5・6年生対象で、昨年度実施した GTEC テストにおいては、全年経った今でも外国語活動に対して「話すことが楽しい」と回答する児童が80%を超えている。外国に興味がある児童も85%いる。興味関心の高さが継続していることがわかる。また、本年度実施した6学年対象外部調査「小学校トライアル」ではライティングの平均スコアが95%を超えるなど、書く活動では十分力をつけていることがわかる。高学年では「外国を紹介する資料を探し、英語で発表するために書く」という活動でもしっかり書くことができている。このことから、第1学年から外国語活動を実施することにより、身近な英語の言葉に興味をもち、言葉に慣れ親しみ、徐々に言葉から文化等に興味をもち、高学年においては自ら調べて書く力をつけていることがわかる。

【課題の改善のための取組の方向性】

第3、4学年の目標である「(1) 言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ。(2) 外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちを伝えあう。(3) 主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。」の中で、特に、本校の課題である(3)の「主体的にコミュニケーションを図る」機会を増やすためにも、第1学年から自分の考えをもち、互いに伝えあう活動の時間を確保するという方向で、本特例の改善を図ることが必要であると考えられる。そのためには、output の活動

を確保することに努めたい。

ただ、3の調査結果では教職員・保護者共に外国の文化に対する興味関心の高まりについては否定的な見方がある。低学年・中学年・高学年における外国語活動の目標が異なるのは当然であり、第1学年から外国の文化に関心をもたせたり、積極的にコミュニケーションを図ろうとしたりすることが発達段階に相応しいかどうか疑問が生じるところである。目標自体を改善する必要性も考えられる。